

和水町人口ビジョン

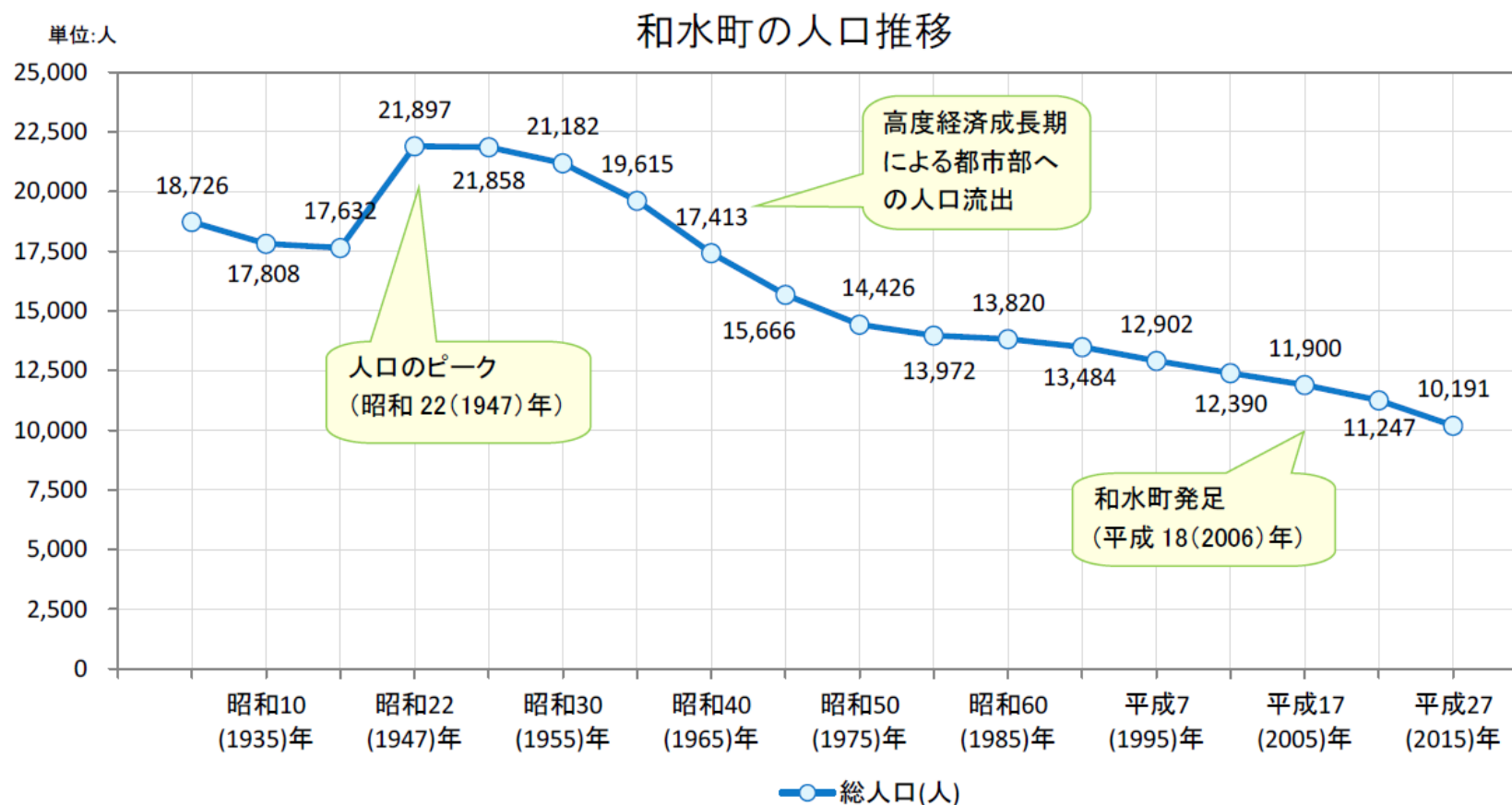
令和 2 年 3 月

和水町

1 和水町の人口

今後、大幅に人口が減少していくとともに、少子高齢化が顕著となる

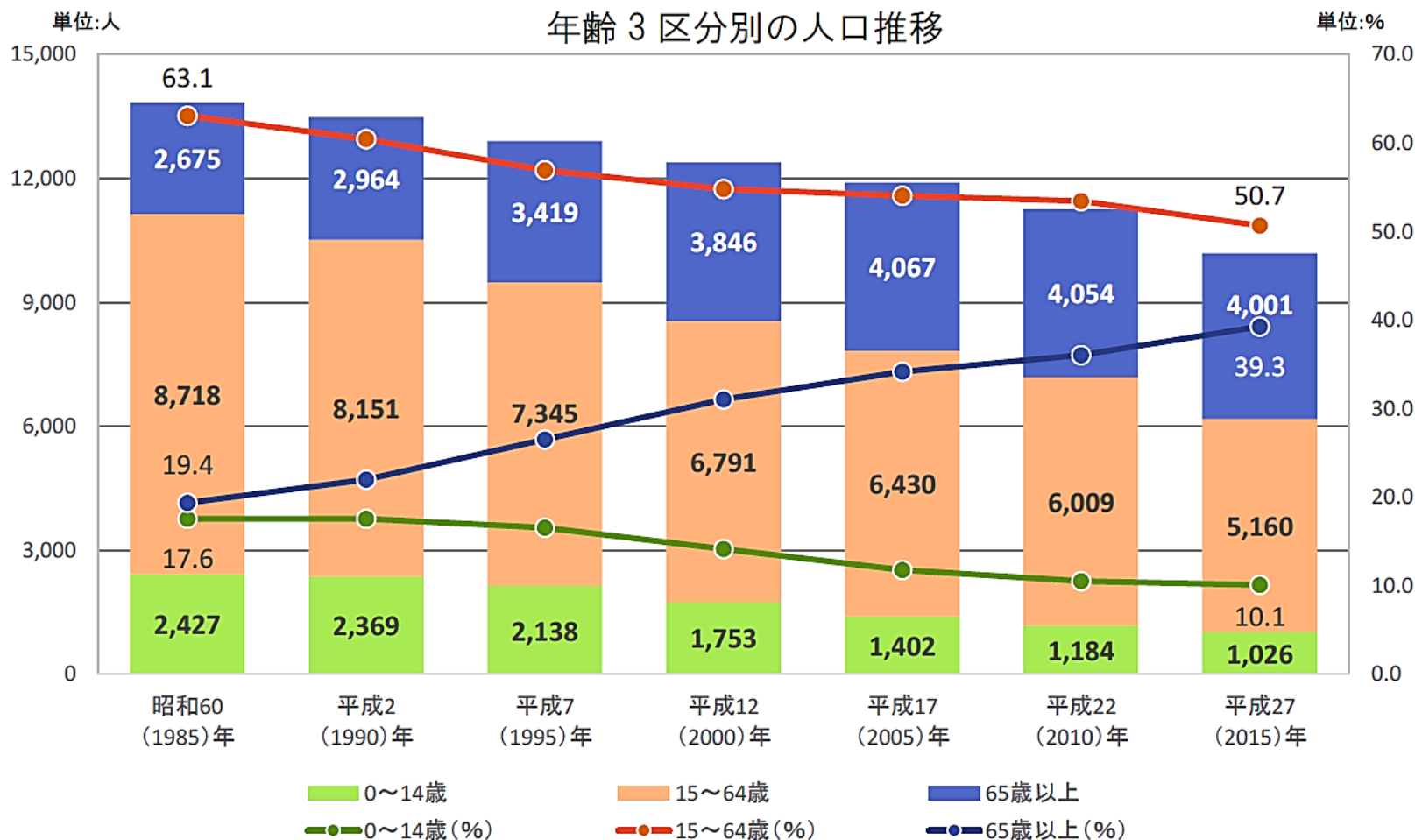
- 本町の人口は、昭和22（1947）年に第1次ベビーブーム等により21,897人とピークを迎えました。その後、昭和30（1955）年頃まではほぼ横ばいに推移していましたが、昭和35（1960）年から昭和45（1970）年にかけて、高度経済成長期による都市部への流出等により大きく減少しました。昭和45（1970）年以降は、人口減少のペースは緩やかになったものの、依然として人口減少は続き、平成27（2015）年国勢調査では10,191人まで減少しています。



○ 年齢3区分別人口推移を見ると、年少人口（0～14歳）の割合は、昭和60（1985）年の17.6%から平成27（2015）年には10.1%と、4割以上減少しています。

生産年齢人口（15～64歳）においても、昭和60（1985）年の63.1%から平成27（2015）年には50.6%と、約2割減少しています。

一方で、老年人口（65歳以上）は、昭和60（1985）年の19.4%から平成27（2015）年には39.3%と約2倍となっており、少子高齢化が深刻となっていることがうかがえます。



資料：国勢調査

(1) 地区別の人口推移及び高齢化率

ほぼ全ての地域において人口減少・高齢化傾向が高まっている

- 校区ごとの人口推移をみると、中央校区はほぼ横ばいで推移していますが、その他校区では減少傾向で推移しています。また、高齢化率をみると、平成27年（2015）年では、すべての校区で3割を超えており、平成24年（2012）年以降全ての校区で3割を超えており、平成24年以降全ての校区で高齢化傾向がより高まっています。

（人口推移）

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
西校区	1272	1249	1220	1213	1200	1168	1161	1128	1113	1105	1088	1048	1038	1017
中央校区	2854	2830	2823	2830	2856	2860	2865	2813	2792	2802	2818	2826	2792	2782
東校区	1520	1499	1467	1442	1414	1372	1322	1313	1274	1237	1199	1143	1106	1080
南校区	1142	1127	1093	1086	1068	1050	1031	999	989	968	977	957	930	912
神尾校区	1917	1858	1817	1776	1742	1744	1717	1688	1681	1637	1602	1556	1512	1434
春富校区	1764	1746	1725	1702	1679	1637	1600	1575	1531	1481	1433	1412	1366	1314
緑校区	1929	1891	1841	1821	1795	1757	1724	1678	1617	1577	1530	1529	1500	1466
町全体	12398	12200	11986	11870	11754	11588	11420	11194	10997	10807	10647	10471	10244	10005

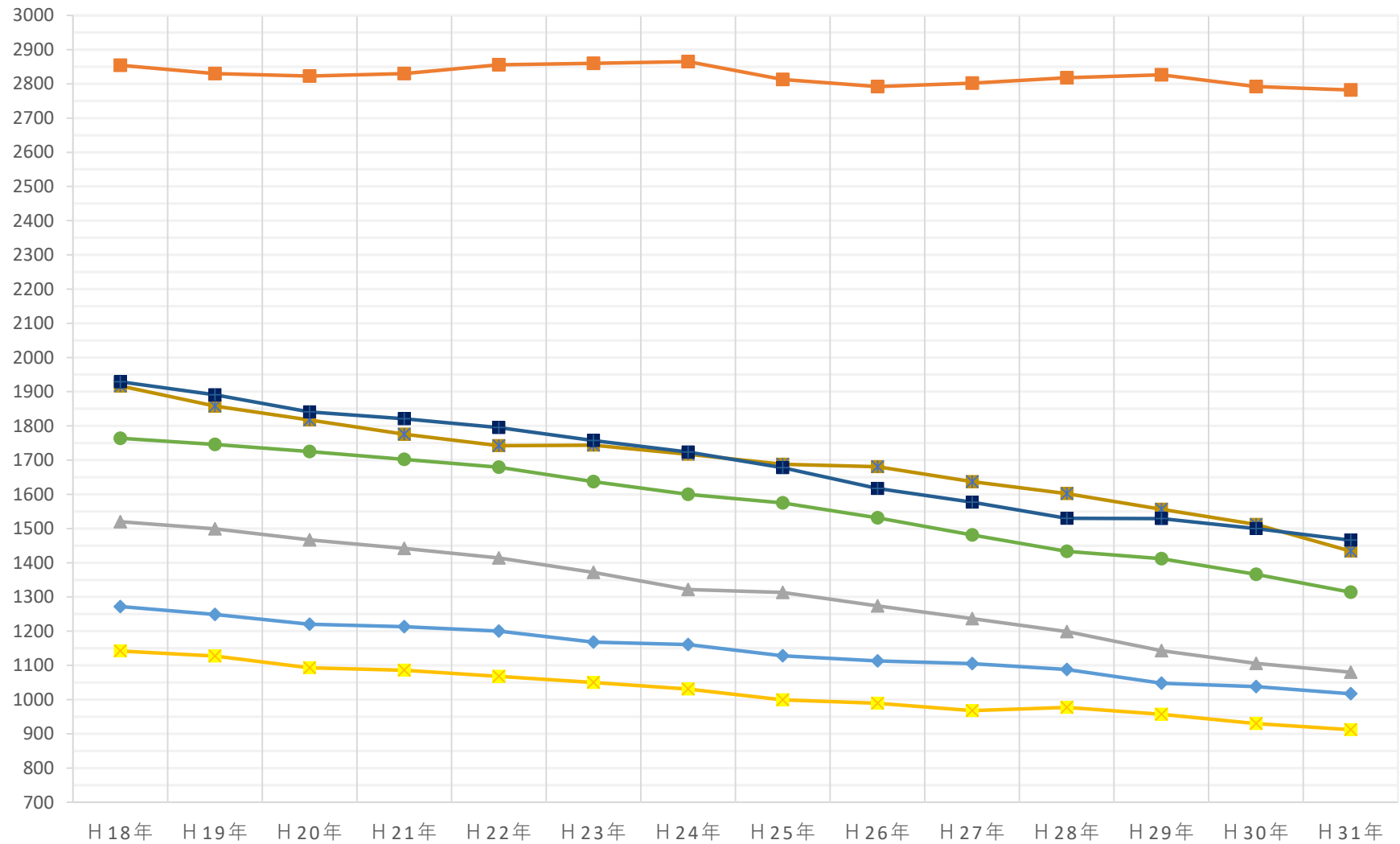
（高齢化率）

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
西校区	30	30.2	31.1	32	32	34	34	35	36	37	37	39	40	41
中央校区	30.4	31	31.4	31.6	31.5	30.7	30.6	32	32.8	33.9	34.2	34.6	35.3	35.4
東校区	34.5	34.3	35.2	35	35.1	35.6	36.5	37.2	37	38.6	40.3	43	43.5	44.8
南校区	30.7	31.7	32.5	33.9	34.6	34.4	34.8	35.8	35.2	35.8	36.4	38.1	39.4	39.6
神尾校区	37.8	39	39	38.5	38.3	38	38.1	38.2	38.4	39.6	39.6	39.8	39.9	41
春富校区	35.3	36.2	36.5	37	36.5	37.4	37.8	38.2	39.5	40.4	41.5	41.9	42.2	43.6
緑校区	32.8	34	34.8	35.9	36.5	36.5	36	37.4	38.3	39.3	40.3	40.7	41.1	41.5
町全体	33.0	33.8	34.4	34.8	35.0	35.2	35.4	36.2	36.7	37.8	38.5	39.6	40.2	41.0

校区別の人口推移

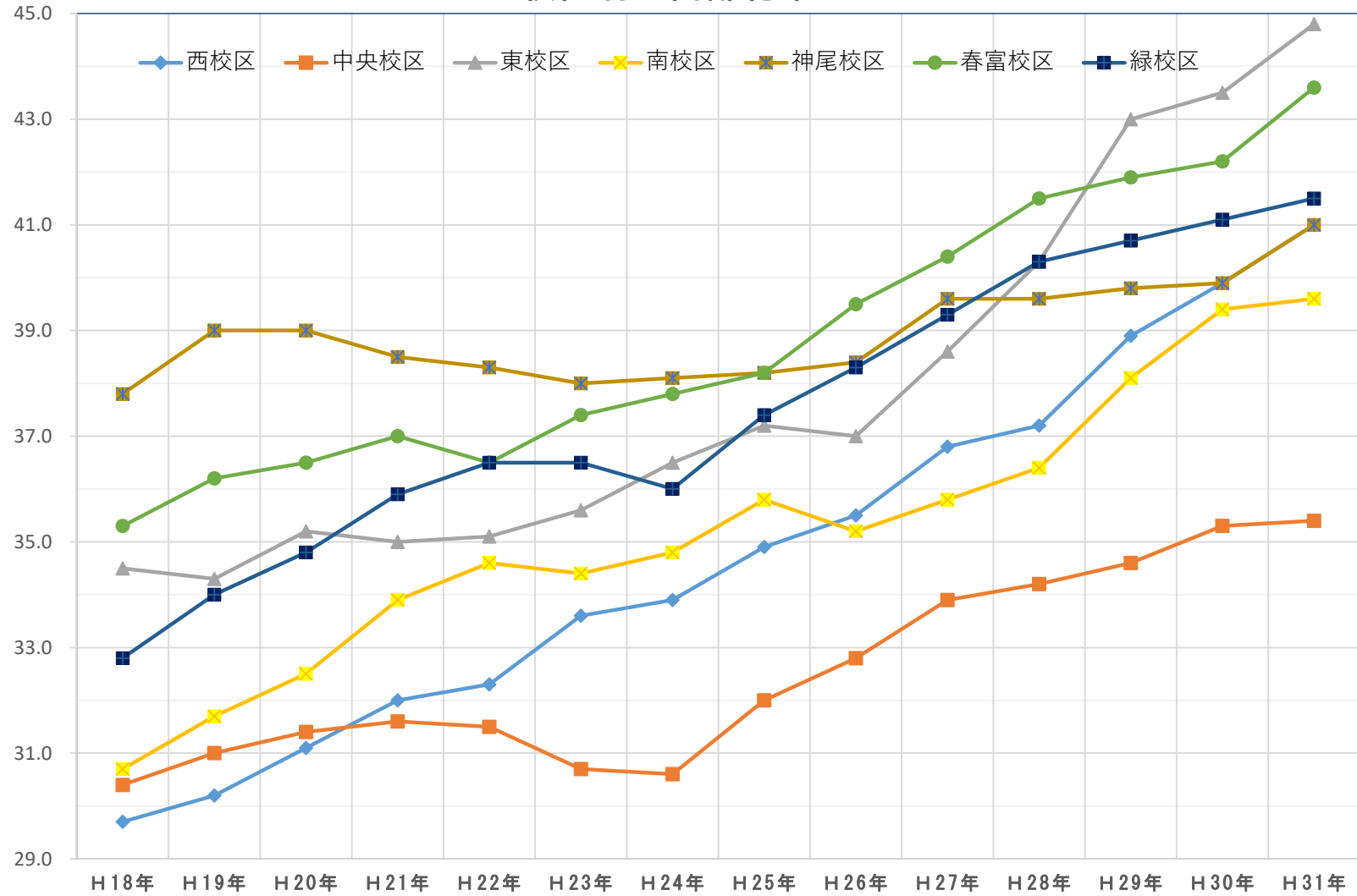
単位：人

西校区 中央校区 東校区 南校区 神尾校区 春富校区 緑校区



単位：％

校区別の高齢化率

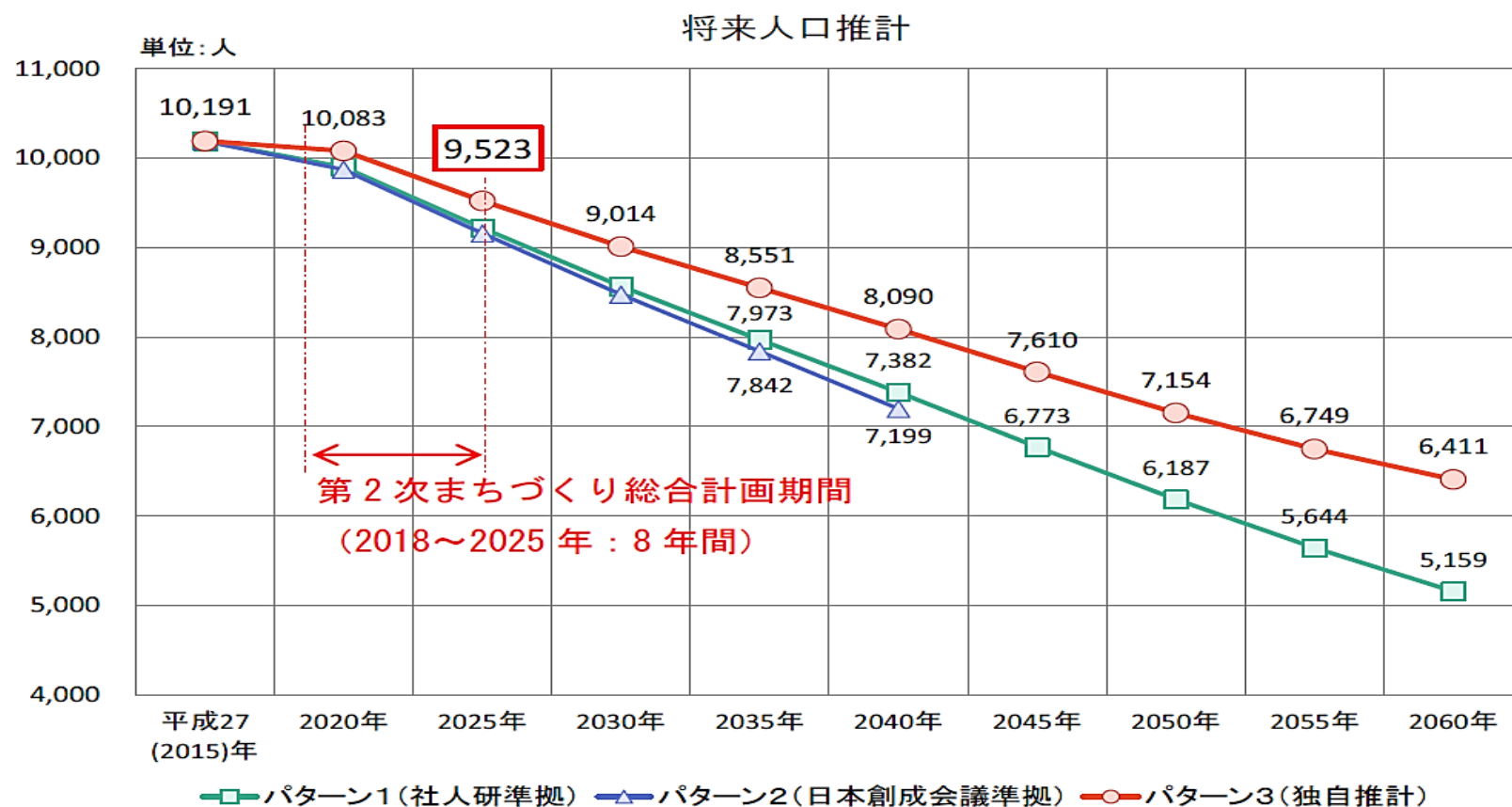


2 人口の見通しと目標人口

(1) 総人口の目標

今後、より大幅な人口減少社会を迎えるが、人口減少抑制に向けた多角的なまちづくりへの取組みが求められる

- 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が平成25（2013）年3月に公表した「日本の地域別将来推計人口」の推計に準拠した国提供の人口推計によると、本町の人口は今後も減少し続け、おおよそ50年後の2060年には人口が半減すると予想されています。
- 本町が設定した独自推計では、移住・定住環境整備の促進、福祉・教育・文化活動、交流事業の充実等を図ることにより、合計特殊出生率を2020年には1.87、2030年には2.00に改善すると、本計画の計画期間の最終年である2025年の人口は9,523人になると推計しており、この人口を本計画の目標人口として設定します。



資料：国勢調査・人口推計用ワークシート（国提供）

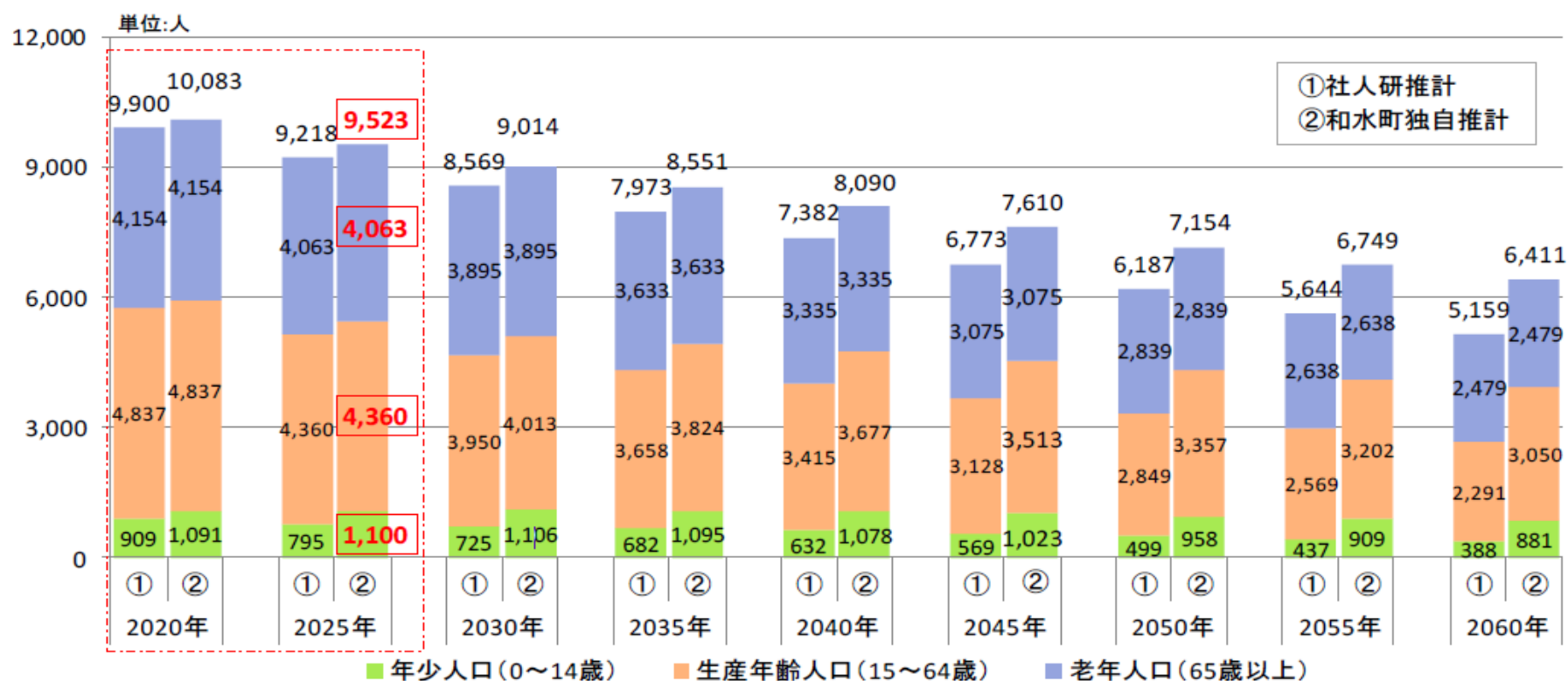
(2) 年齢別人口の目標

まちづくりを担う若者（年少・生産年齢人口）の減少が顕著になる

- 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が平成25（2013）年3月に公表した「日本の地域別将来推計人口」の推計に準拠した国提供の年齢別人口推計によると、2020年には年少人口比率が全体人口の1割を切り、2045年には年少人口が8.4%まで減少し、一方で老年人口比率は45.4%まで上昇し、2.2人に1人が65歳以上になると予想されています。

本町が設定した独自推計では、合計特殊出生率が2020年には1.87、2030年には2.00に改善されると、本計画の計画期間の最終年である2025年の年少人口比率は11.5%、老年人口比率は42.7%になると推計しており、年少人口比率を1割以上に維持することを年齢別人口の目標として設定します。

年齢3区分別人口推計

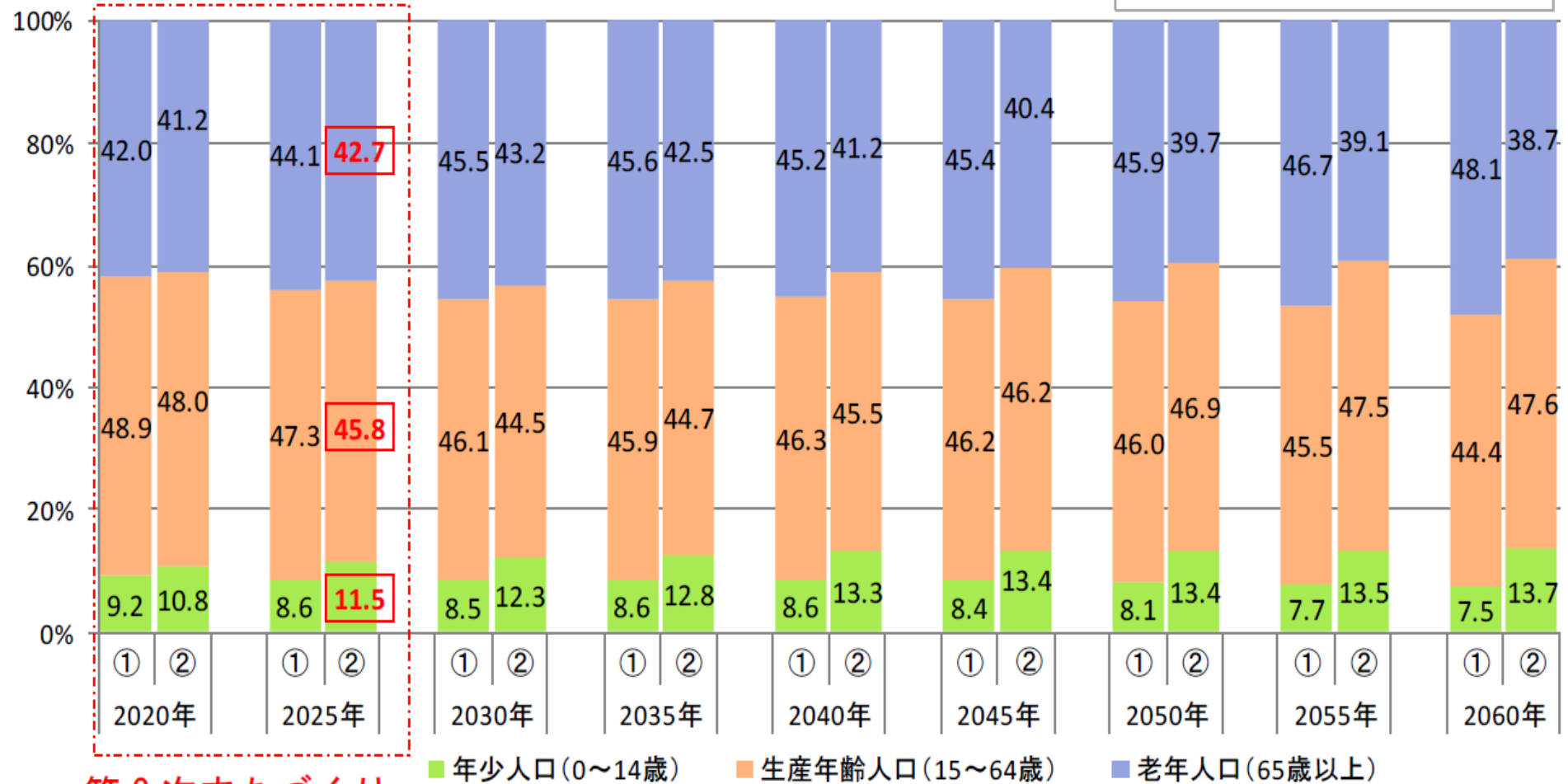


第2次まちづくり
総合計画期間

資料：国勢調査・人口推計用ワークシート（国提供）

年齢3区分別人口比率推計

①社人研推計 ②和水町独自推計



第2次まちづくり
総合計画期間

資料：国勢調査・人口推計用ワークシート（国提供）